

10校に危険な老朽校舎



柱のコンクリートが一部剥がれ、鉄筋がむき出しとなった校舎＝7日、那覇市内

市に早期補修要望

「新子どもを守る会」調査

新沖縄子どもを守る会（加藤彰彦会長）は13日までに、那覇市内の全市立幼小中学校53校を独自に調査した校舎の老朽化状況をまとめ、10校で「明らかに危険な校舎や体育館を抱えている」と発表した。同会は「最も安全が重視される学校でこういう状況が見られるのは大きな問題」と指摘し、市教育委員会に補修を要望するなど対応を求めている。

市教委「計画的に改築」

その結果、柱やはりなどの建物を支える主要構造部でコンクリートが剥がれ、鉄筋が見えるなど「危険な校舎がある」学校が10校あったという。

新沖縄子どもを守る会に所属する建築士4人が計5日かけて調査。鉄筋の腐食でコンクリートが剥げ落ちていないかや大きなクラック（ひび割れ）がないか、補修されているかなどを目視調査した。

ひさしなどのコンクリート剥落が見られたのが8校。劣化症状が軽い校舎は10校、問題がないと思われる学校は25校だった。

琉球大工学部の山川哲雄教授（建築構造学）は「剥がれたコンクリート

原因に海砂大量使用

市、財政難で対応追い付かず

「危険な校舎」を抱える学校が10校ある背景には、除塩されていない海砂が大量に使われた時期に建てられたことや、財政難で補修や改築が追い付かない現状がある。10校のうち市長部局が管理する幼稚園が「危険」と判断された2校を除いた小中学校8校は、全て沖縄国際海洋博覧会があった1970年代に増改築された。建設フツシユでコンクリートの材

料が足りず、海砂が大量に使われた時期だ。77年には旧建設省が塩分規制通達を出すまで続いた。海砂を使ったコンクリートが関係すると見られる建物の損傷は、浦添市のマンションの廊下崩落（2009年）や、浦添市の中学校で教室天井のコンクリート片が剥がれ落ち、生徒が負傷する事故（02年）など、たびたび問題となっている。老朽化に追い打ちをか

けるのが行政の財政難だ。市教委によると3年以内に一部校舎の改築が予定されるのは8校中2校。改築に向け数年以内の耐力度調査が計画されるのは3校で、状況改善には時間がかかる見込みだ。

このほか、今回「危険」と指摘された校舎も含まれ、81年の新耐震基準施行以前に建てられ、耐震化が求められる建物が約30校ある。市教委は「危険性があ

に当たってけがをしたり、地震の際に鉄筋の内側のコンクリートが耐えられず、はじけたりすることもあり得る」と危険性を指摘。「コンクリートが剥がれ、鉄筋が見えている状態は鉄筋コンクリートとは言えない」とした。

PTAを挙げて要請しているが、市教委は老朽化度合いを見て優先度を付けているという。財政事情は分かるが、一日でも早く取り組んでほしい」としている。

だが「老朽化した校舎の建て替えを優先」（市教委）し、耐震化まで手が回らない状況だ。調査した一級建築士の福村俊治さん（59）は「メンテナンスをきちんとしていれば、ここまで深刻にならなかつた」と指摘する。